

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第187号
令和4年度第4号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催 海外津波博物館等とのオンライン交流開催

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和4年11月20日(日)、岩手県は、東北大学災害科学国際研究所の協力の下、岩手と米国ハワイ、インドネシア・アチェの高校生が、それぞれの地域で発生した津波災害や教訓、伝承活動を紹介する「海外津波博物館等とのオンライン交流」を陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園国営追悼施設・祈念施設管理棟セミナールームで開催しました。

この催しは、東日本大震災津波の事実と教訓を伝承・発信し、国内外の防災力向上に貢献するとともに、伝承の担い手や地域防災活動を担う人材の育成につなげるため、初めて企画したものです。

当日は、県立大槌高校復興研究会が「教訓を語り継ぐ」と題し、同研究会による被災した町内の「定点観測」や震災の経験を伝える「防災紙芝居」などの伝承活動を英語で発表しました。また、ハワイのヒロ高校からは、観光客へ津波の歴史や避難行動を周知する重要性について、アチェのバンダ・アチェ第一高校からは、現地に伝わる「スモン」という津波の歌や物語による伝承について発表があり、その後は、お互いの発表を踏まえ、若い世代に何ができるか共に考えを巡らせながら意見交換を行いました。

参加者した高校生たちは、「どの国も津波を知らない世代が増えてくるので、みんなで教訓を伝えたい」と誓っていました。

オンライン交流の様子は、来年3月上旬に県公式動画サイトで配信予定ですので、是非ご覧ください。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課

☎019-629-6945



岩手、ハワイ、アチェの高校生がオンラインで交流する様子

開催 防災・伝承セミナー in 岩手開催

宮古市
MIYAKO

令和4年11月7日(月)、東日本大震災の教訓や実情を伝承するとともに、各地の震災伝承施設の情報発信やネットワーク化に取り組む一般財団法人3.11伝承ロード推進機構は、岩手県との共催により「令和4年度防災・伝承セミナーin岩手」を宮古市の市民交流センターで開催しました。

冒頭、達増知事から、メッセージ動画で「今年9月には、本県最大クラスの地震・津波に備え『岩手県地震・津波被害想定調査報告書』を公表したところであり、自助、共助、公助による防災体制を強化するとともに、県民や市町村などあらゆる主体と連携しながら、犠牲者ゼロを目指した地震・津波防災対策に全力で取り組んでいく」と挨拶がありました。

セミナーでは、県の地震津波被害想定への検討に携わった岩手大学理工学部の南正昭教授による「岩手県の新たな津波浸水想定と未来への備え」と題した基調講演や、

復興庁の岡本裕豪統括官付審議官による特別講演のほか、「これからのまちづくりと震災伝承について」をテーマとしてパネルディスカッションが行われました。

オンラインを含む約300人の参加者は、講演やパネルディスカッションを聴講しながら、未来への備えに向けて震災の教訓をどう生かすかについて共に考えました。

参加者からは、「津波の光景が忘れられない。私たちは災害が身近な場所に暮らしており、自分の身を自分で守らなければ」との感想が聞かれました。

■問い合わせ

一般財団法人3.11伝承ロード推進機構

☎022-393-4261



パネルディスカッションの様子
(写真提供:一般財団法人3.11伝承ロード推進機構)



開催

いわて三陸復興現地見学会 ～農業農村整備応援感謝の集い～

宮古市
山田町
大船渡市
陸前高田市
MIYAKO・YAMADA
OFUNATO・RIKUZENTAKATA



宮古市津軽石赤前地区の復旧農地の営農状況を視察する参加者

令和4年9月26日(月)、東日本大震災津波で被災した農地や農業用施設の復旧・復興に携わった全国各地の応援職員に参加いただき、宮古地域、大船渡地域において「いわて三陸復興現地見学会～農業農村整備応援感謝の集い～」を開催しました。

東日本大震災津波では、県内1万3千箇所以上の農地(約1,950ha)のほか、農業用施設、農地海岸保全施設など、数多くの農地・農業用施設が被災し、令和3年度の復旧・復興事業の完了までに、国や全国の道府県から100名以上の派遣応援をいただきました。

参加した応援職員からは、「担当した地区の地盤は泥炭層で非常に苦労した。岩手には年に何度か来ている。今後も見守り続けたい」など、数多くのメッセージをいただきました。

今後も、これまで本県に応援いただいた職員の皆様、派遣元の自治体、団体の皆様とのご縁を大切にしながら、引き続き、県内被災地域の農業振興に努めていきます。

■問い合わせ 岩手県農林水産部農村計画課
☎019-629-5666

販売

吉里吉里学園中学部が恵比寿ガーデンプレイスでわかめを販売

大槌町
東京都
OTSUCHI
TOKYO

令和4年9月27日(火)、大槌町立吉里吉里学園中学部9年生の14名が、サッポロ不動産開発株式会社の協力の下、東京の恵比寿ガーデンプレイス内センター広場で、修学旅行の学習の一環としてわかめの販売を3年ぶりに行いました。当日販売したわかめは、漁協の方々や保護者の指導の下、地元の産業を学ぶ「ふるさと科」の授業の一環として、生徒自らが種付けから収穫、加工までを行い、心を込めて作った塩蔵ワカメです。参加した生徒は、「わかめ販売を通して吉里吉里の魅力に気が付いた」と満足そうに話していました。



わかめ販売の様子
(写真提供:大槌町立吉里吉里学園)



職場体験の様子
(写真提供:大槌町立吉里吉里学園)

その後、生徒たちは、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社による職場体験に参加しました。グループワークによる商談内容の作成や商談プレゼンテーションなど、新商品の商談を体験し、職業や働くことについて考える貴重な機会となりました。

■問い合わせ 大槌町立吉里吉里学園中学部
☎0193-44-2310

世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和4年11月24日(木)、東日本大震災津波伝承館の事業運営に関する調査・審議を行う、令和4年度2回目の運営協議会(会長・南正昭岩手大学理工学部教授、委員11人)が開かれました。

この日は、南会長など委員7人が出席し、初めに事務局から令和4年度上半期の取組状況について報告があり、4月1日から10月31日までの来館者数は約14万7千人、1日当たりの平均来館者数は690人で、前年度に比べ増加しており、また、団体利用では、修学旅行や校外学習による学校利用を始め、令和5年3月までに1千件を超える予約があることが報告されました。

その後、委員からは、三陸沿岸地域へのゲートウェイ(玄関口)としての取組や、団体利用のリピーター状況等について質問があり、また、11月5日(土)に開館した陸前高田市立博物館や地元の高校などとの連携・強化を求める意見も寄せられました。

東日本大震災津波伝承館では、委員の方々からいただ

いたご意見を踏まえ、関係機関や施設とも連携、協力しながら、展示や教育普及事業の実施など、より良い運営に取り組んでいきます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館
☎0192-47-4455



意見交換の様子

体験

釜石高校「夢団」
クロスロード作成釜石市
KAMAISHI

東日本大震災津波の伝承活動などに取り組む県立釜石高校の生徒有志団体「夢団～未来へつなげるONE TEAM」は、カードゲーム形式で防災意識の向上を図る釜石版クロスロードを作成し、令和4年10月18日(火)、釜石市の鶴住居地区生活応援センターで初めて披露しました。



「釜石版クロスロード」を説明する様子

釜石版クロスロードは、出身中学校によって防災意識に差があることに着目した夢団メンバーが作成したもので、「真冬にペットを避難所へ連れていくか」など、簡単に答えが出せない6問が設定され、災害時の判断を机上で疑似体験することができます。

当日は、総合学習で訪れた県立盛岡第三高校の1年生39人が挑戦し、夢団メンバーのアドバイスを受けながら、災害時に迫られる判断を巡って互いに意見を出し合いました。考案した夢団のメンバーは、「より心に残り、防災意識が高まるような問題を考えた。自分の命を自分で守れるようになって欲しい」と意義を語りました。

■問い合わせ 岩手県立釜石高等学校
☎0193-23-5317

発信

大船渡小学校
震災の教訓を劇で発信大船渡市
OFUNATO

令和4年10月22日(土)、大船渡市立大船渡小学校の6年生30人が、同校の学習発表会で、東日本大震災津波発生時の大船渡を舞台とする創作劇を披露しました。

創作劇は、東日本大震災津波が発生した平成22年度に生まれた6年生が、平成23年3月11日の大船渡小学校にタイムスリップするというもので、大地震と大津波を目の当たりにしながら高台の大船渡中学校へ避難し、変わり果てた街に衝撃を受けながらも、避難所運営に奔走する住民とその生活の中で生まれた絆、復興に尽力するボランティアの様子から、将来の防災について考える内容となっています。

子どもたちは、自分が取るべき避難行動をまとめる「私の津波ブック」の作成や震災学習列車での学びなど、防災学習に4年生から取り組んでおり、「いざとなると落ち着いて行動するのが難しい」「だから日頃から備えておくことが大切なんだ」と、震災津波の事実と教訓を伝え続けることの大切さをせりふに込めて訴えました。



学習発表会で創作劇を披露する様子

■問い合わせ 大船渡市立大船渡小学校
☎0192-26-3524



さんりくイベント情報

山田まるっと産直まつり

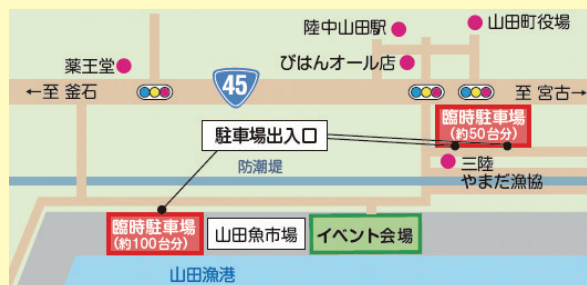
山田町
YAMADA

山田の特産品をまるっと販売する「山田まるっと産直まつり」が開催されます。

水産物、農産物、加工品等の販売のほか、カキ・ホタテすくいや鮮魚の詰め放題、会場で購入した山田の幸をその場で食べられる利用料無料のバーベキューコーナーなど、冬の山田を堪能できるイベントです。

また、ご来場いただいた方を対象に、三陸山田かき小屋ペアチケットなど豪華賞品が当たる抽選会も開催します。皆様、お誘いあわせの上、お越し下さい！

- 開催日 令和4年12月4日(日)
※荒天中止、少雨の場合は実施
- 時間 午前9時30分から午後1時30分まで
- 場所 山田魚市場横特設会場(山田町境田町)
- 問い合わせ 山田町水産商工課
☎0193-82-3111



「みやぎ・いわて三陸道ドライブスタンプラリー」実施中

宮城県/大船渡市/陸前高田市/釜石市/住田町
MIYAGI/OFUNATO/RIKUZENTAKATA/KAMAISHI/SUMITA

宮城県気仙沼地方振興事務所と岩手県沿岸広域振興局では、宮城・岩手の6市町(宮城県気仙沼市、南三陸町、岩手県大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町)を縦断する三陸道ドライブスタンプラリーを実施しています。全線開通した三陸道で、宮城と岩手の雄大な自然と観光スポットを楽しみながらスタンプを集めると、抽選で豪華景品が当たります。



是非この機会に、三陸地域の魅力を体感してみませんか！

- 開催期間 令和5年1月22日(日)まで
- 参加方法 スタンプを集めてプレゼントに応募しよう！
- ①スマホでキャンペーンHPからユーザー登録
 - ②おすすめスポットへGO！
 - ③スマホを開き、スタンプをタップ！
 - ④スタンプを集めてプレゼントに応募！
- 商品について：集めたスタンプの数に応じて、抽選でステキなプレゼントが当たります。

●問い合わせ 宮城県気仙沼地方振興事務所
☎0226-24-2593(平日9:00~17:00)

ユーザー登録はこちら➡



※新型コロナウイルス感染症の影響等により、中止や内容が変更となる場合があります。あらかじめ、問い合わせ先にご確認ください。



陸前高田市立博物館

修復資料など
約7,300点を展示



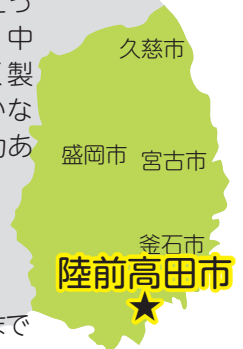
東日本大震災津波で全壊した陸前高田市立博物館が、同市の中心市街地に再建され、令和4年11月5日(土)に11年7か月ぶりに開館しました。

東北地方登録第1号の公立博物館として昭和34年に開館した旧館は、土器や昆虫など約23万点を収蔵していましたが、津波により施設は全壊し、「海と貝のミュージアム」など他の3施設と合わせて約56万点の資料が被災しました。このうち回収できた約46万点について、塩分を除く脱塩や除菌などの安定化处理を重ね、これまでに約30万点を修復しました。再建された博物館には、世界的にも例のない修復作業でよみがえった資料など約7,300点が展示されています。メインの1階常設展示室には、中央に「貝たちの部屋」を配置し、世界で唯一の全長9.7mのツチクジラのはく製「つつちい」や約2,000点の貝類標本が展示されています。陸前高田の豊かな自然・歴史・文化を、震災の記憶とともに未来へ伝え、地域に根差し、活力あるまちづくりを推進する総合博物館を是非訪れてみて下さい。

- 場所** 岩手県陸前高田市高田町字並杉300番地1
- 開館時間** 午前9時から午後5時まで(最終入館は午後4時30分まで)
- 観覧料** 無料(特別展示を行う場合は、展示内容に応じ観覧料を徴収する場合があります)
- 休館日** 毎週月曜日(祝日・休日の場合は翌日)、12月29日から翌年1月3日まで
- 問い合わせ** 陸前高田市立博物館 ☎0192-54-4224



陸前高田市立博物館(写真提供:陸前高田市)



いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介します。第133回は**外館 心さん**をご紹介します



～ 地元の食材を生かしたお菓子作りをしていきたい～

PROFILE

野田村出身。高校を卒業後に上京し、東京の菓子専門学校に進学。卒業後、神奈川県内の和菓子店などで腕を磨く。平成22年に帰郷し、まるきん大沢菓子店に勤める。東日本大震災による店舗被害を乗り越え、3人の子どもを育てながら、和洋菓子の製造・販売に励む。

地元の人たちの励ましが力に

まるきん大沢菓子店は、外館心さんの祖父が創業した野田村で90年以上続く老舗和菓子店です。外館さんが家業を意識したのは、幼い頃のことでした。「当時、製造工場が離れていて、店舗ではお菓子を作っていなかったんです。お客さんに頼まれても、その場で対応することはできず、『ここで作れたらいいのに』という思いが、家業に入るきっかけになりました」と振り返ります。

神奈川県のと菓子店などで修業を積み、地元に戻ったのは平成22年のことでした。改装して工場付きの店舗となり、お菓子作りがスタート。約1年かけてようやく軌道に乗り始めた頃、東日本大震災が発生します。津波で建物は大規模半壊し、機械も被害を受けました。「でも、

地元の人たちの背中を押す声と、ボランティアの方々のサポートのおかげで、2か月後には再開することができました」と話します。

地元食材を使った「くずバー」がヒット

東日本大震災津波から約10年が経ち、今度は新型コロナウイルス感染症流行の影響を受ける中で、くず粉を使ったアイスキャンディー「くずバー」を発売しました。山ぶどうや野田塩など地元食材を使った商品も考案し人気を集めています。

「野田村は人と人との距離が近く、皆が皆のことを知ってくれていて、何かがあった時に助けてくれるところが魅力だと思います。そんな街をもっと盛り上げられるように、私も腕を磨いて、地元の素材を使ったお菓子作りに挑戦したいです」と力を込めます。

岩手県の被害状況

令和4年10月31日現在

- 人的被害 死者：5,145人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,110人
- 建物被害(住家のみ、全半壊) 26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

令和4年10月31日現在

- 義援金受付状況 約188億3,246万円(98,864件)
- 寄附金受付状況 約203億8,830万円(15,879件)
- いわての学び希望基金(※)受付状況 約105億4,135万円(26,978件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

[いわて震災津波アーカイブ](#)

[検索](#)



いわて復興だより 第187号

令和4年12月2日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正／永代印刷株式会社